

岡山県感染症週報 2014 年 第 11 週 (3 月 10 日～3 月 16 日)

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

◆2014 年 第 11 週 (3/10～3/16) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 10 週 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (60 代 女)
5 類感染症 麻しん 1 名 (幼児 女)
第 11 週 2 類感染症 結核 2 名 (80 代 女 1 名、90 代 女 1 名)
5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (60 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 1489 名 (定点あたり 17.76 → 17.73 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
○感染性胃腸炎は、県全体で 494 名 (定点あたり 8.59 → 9.15 人) の報告があり、横ばいで推移しています。

【第 12 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 29 施設でありました。(3 月 17 日～20 日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 1489 名 (定点あたり 17.76 → 17.73 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。県全体の報告数はピークとなった第 5 週と比べると減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。地域別では、倉敷市 (25.25 人)、備中地域 (23.58 人)、岡山市 (17.36 人) の順で定点あたり報告数が多く、備前地域、備中地域、真庭地域及び美作地域で報告数が増加しました。インフルエンザによる入院患者は 3 名の報告がありました。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 57 施設であり、第 12 週も臨時休業施設が多発しています。県内の発生状況など詳しくは、[「インフルエンザ情報」](#)をご覧ください。
全国の第 10 週の発生状況を見ると、定点あたり 22.93 人であり、前週より減少しました。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 494 名 (定点あたり 8.59 → 9.15 人) の報告がありました。第 7 週以降横ばいで推移していますが、第 8 週以降はわずかに増加が続いています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは [「感染性胃腸炎情報」](#) をご覧ください。

【お知らせ】

岡山県内に関する「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 調査中間とりまとめ」を、感染症情報センターホームページに掲載しました。

- ・ [「重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\) 調査中間とりまとめ」](#) を掲載しました。

春休みに海外へ旅行される方へ

○春休みに海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省検疫所のホームページに掲載されました。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症があります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

* [春休みに海外へ渡航される皆さまへ!](#) (厚生労働省検疫所ホームページ)

☆小学校入学前に麻しん・風しんの予防接種を!

麻しん・風しんの定期予防接種 (第 2 期) の接種期間は、小学校入学前の 1 年間 (4 月 1 日～3 月 31 日) となっています。

4 月から小学校に入学される方で、まだ接種を済ませていない方は、忘れずに接種しましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病			伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎		★	無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		★
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少



: 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

★★★★★: 非常に多い

今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

インフルエンザ情報 2014 年 第 11 週 (3 月 10 日 ~ 3 月 16 日)

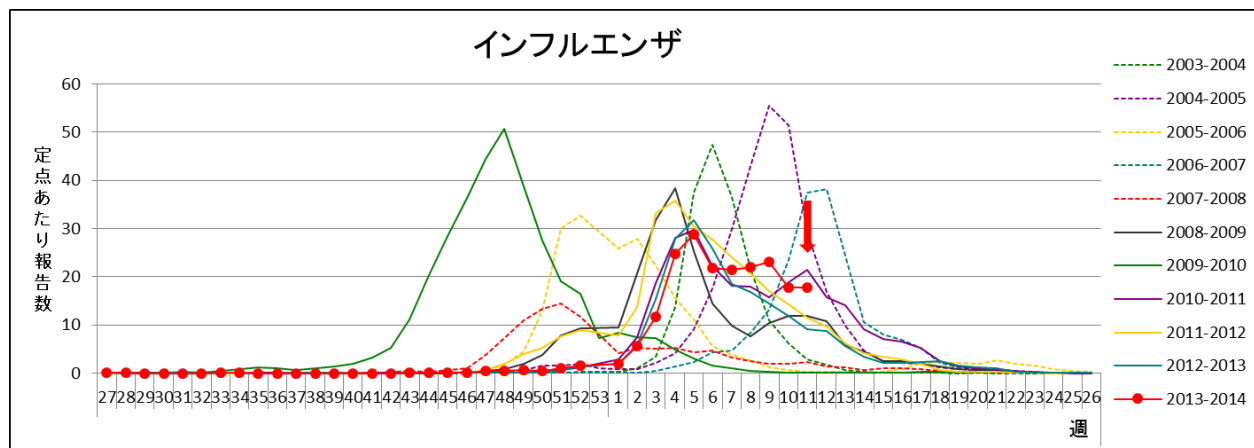
◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1489 名 (定点あたり 17.76 → 17.73 人) の発生があり、前週とほぼ同数でした。
- インフルエンザによる入院患者 3 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 57 施設でありました。

【第 12 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 29 施設でありました (3 月 17 日~20 日)。



インフルエンザは、県全体で 1489 名 (定点あたり 17.76 → 17.73 人) の発生があり、前週とほぼ同数でした (84 定点医療機関報告)。県全体の報告数はピークとなった第 5 週と比べると減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。

地域別では、倉敷市 (25.25 人)、備中地域 (23.58 人)、岡山市 (17.36 人) の順で定点あたり報告数が多く、備前地域、備中地域、真庭地域及び美作地域で報告数が増加しました。

学校等の臨時休業は 57 施設から報告がありました。第 12 週も臨時休業施設が多発していることから、今後も幼稚園児、小学生、中学生を中心に患者の発生が懸念されます。『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠をとる。』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザが流行しています。感染予防と拡大防止に努めて下さい。

◎外から帰ったときや、食事前には手洗い・うがいを心がけましょう。
アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

◎インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。
周囲の方々のためにも普段から「咳エチケット」を心がけましょう。

◎可能な限り人混みを避け、マスクを着用しましょう。体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

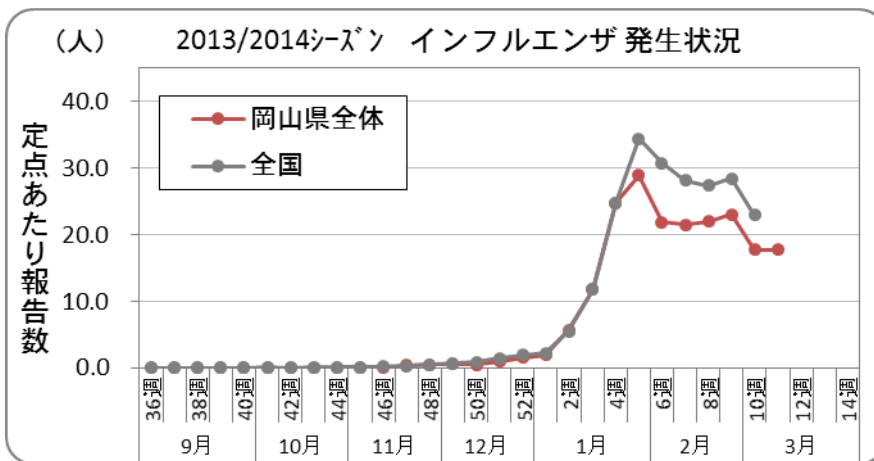
ワクチンは、感染を完全に防ぐことはできませんが、発熱期間の短縮や、重症化を防ぐことには効果があると言われています。

1. 地域別発生状況

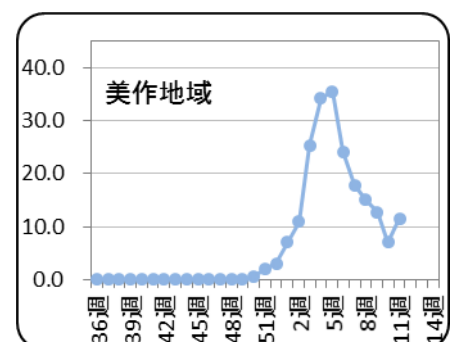
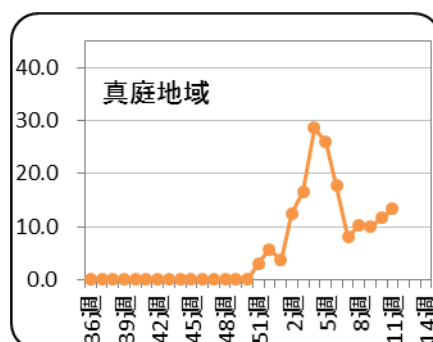
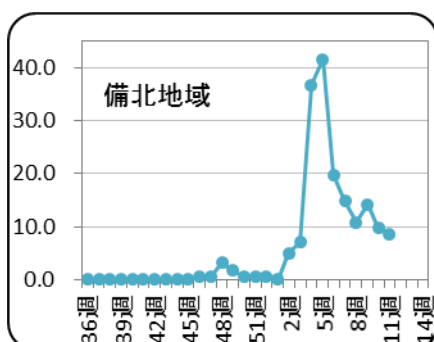
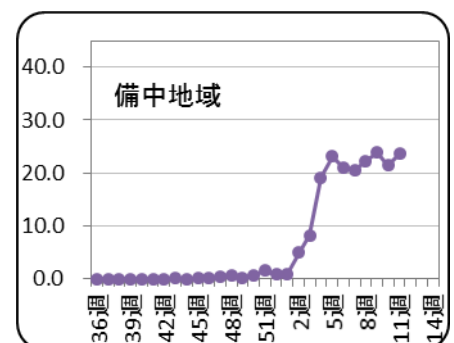
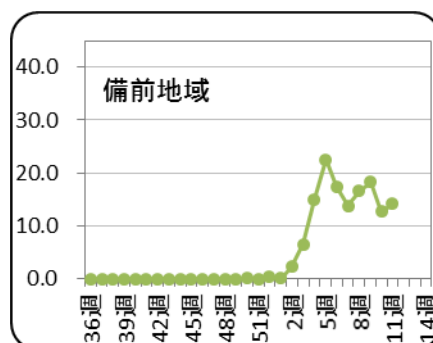
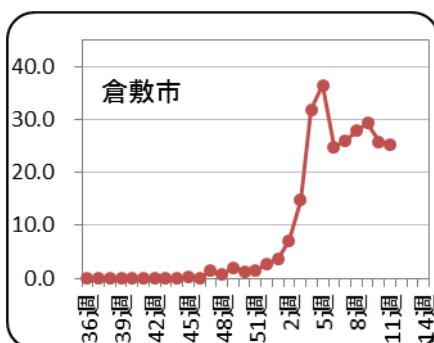
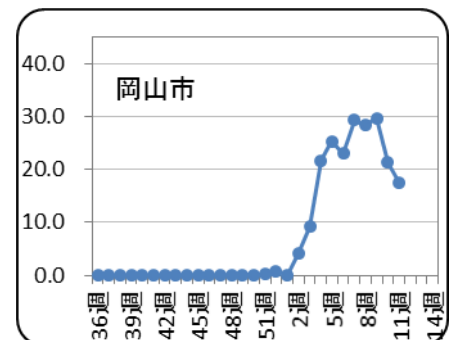
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1489	➡	備 中	患者数	283	➡
	定点あたり	17.73			定点あたり	23.58	
岡山市	患者数	382	➡	備 北	患者数	52	➡
	定点あたり	17.36			定点あたり	8.67	
倉敷市	患者数	404	➡	真 庭	患者数	40	➡
	定点あたり	25.25			定点あたり	13.33	
備 前	患者数	213	➡	美 作	患者数	115	➡
	定点あたり	14.20			定点あたり	11.50	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ➡ 1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑

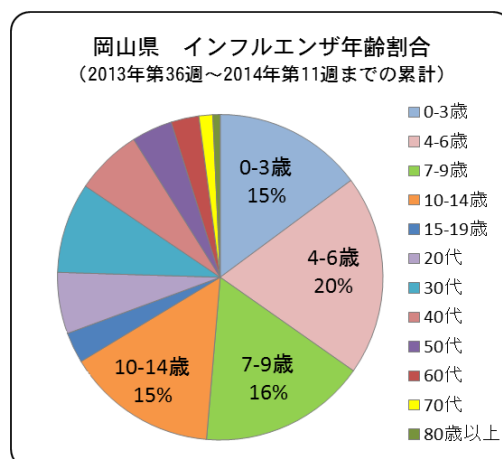
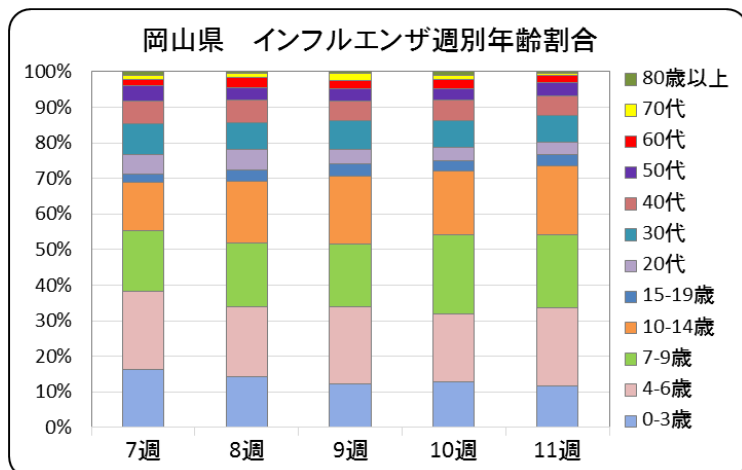


全国集計第10週(3/3～3/9)速報値によると、全国では定点あたり22.93人であり、前週より減少しました。地域別では、宮城県(38.99人)、福井県(38.94人)、岩手県(37.86人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、43都道府県で前週より減少しました。



2. 年齢別発生状況

今シーズン(2013年9月2日～)の年齢別累計割合は、4-6歳 20%、7-9歳 16%、0-3歳及び10-14歳 15%の順で多くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

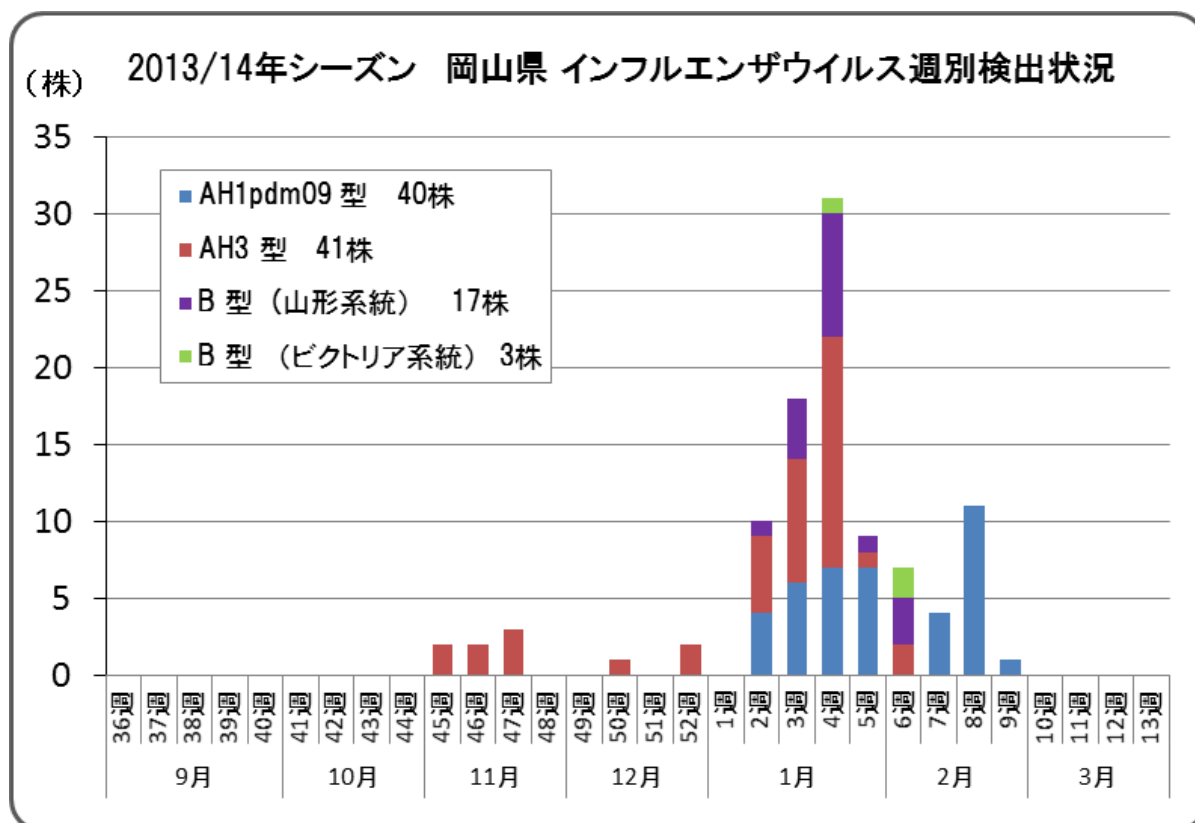
第11週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が41株(40%)、AH1pdm09型が40株(40%)、B型が20株(20%)となっています。

・(岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 47%、B型 28%、AH3型 25%の順に多く検出されています。1月以降はAH1pdm09型の検出割合が増加しています。

AH1pdm09型のインフルエンザウイルスは、4年前の2009/2010年シーズンに新型インフルエンザとして大流行し、その年に検出されたウイルスの98%がAH1pdm09型となりました。その後、2011年4月以降は通常の季節性インフルエンザの扱いとなり、つづく2シーズンは低い検出率(0.2～2.4%)でしたが、今シーズンは3年ぶりに検出率が高くなっています。(平成26年3月20日現在)

・(インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所))

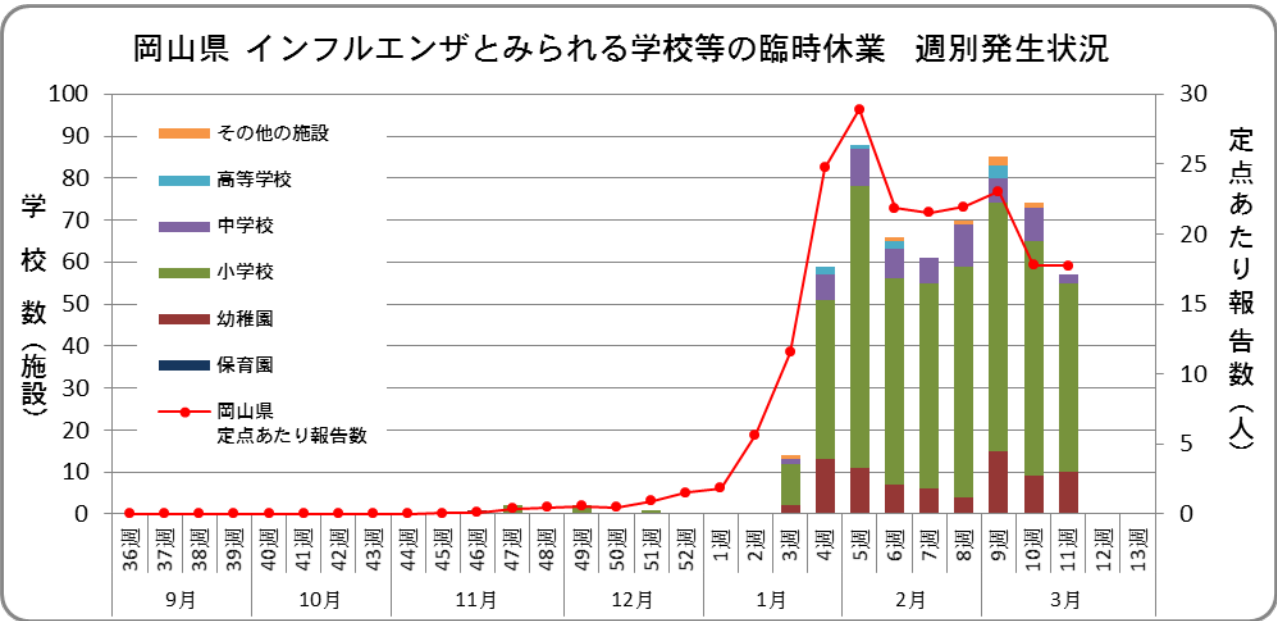


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 57 施設でありました。

【第 11 週 臨時休業施設数】

▽岡山市 14 ▽倉敷市 13 ▽玉野市 5 ▽備前市 3 ▽赤磐市 2 ▽吉備中央町 2 ▽総社市 6
▽井原市 2 ▽笠岡市 2 ▽浅口市 1 ▽早島町 1 ▽奈義町 2 ▽西粟倉村 2 ▽津山市 1
▽勝央町 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	664	8384	531	6373	57	580	1	14	21	160	35	406	H25. 11. 13
岡山市	182	3626	126	2613	14	216	0	3	4	34	10	179	H26. 1. 14
倉敷市	163	1410	131	1131	13	104	0	1	3	21	10	82	H25. 11. 18
備前地域	116	744	103	603	12	66	1	1	6	33	5	32	H26. 1. 16
備中地域	142	1080	120	833	12	82	0	0	3	21	9	61	H25. 11. 13
備北地域	0	115	0	98	0	12	0	2	0	5	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	0	75	0	62	0	9	0	0	0	8	0	1	H26. 1. 27
美作地域	61	1334	51	1033	6	91	0	7	5	38	1	46	H25. 12. 20

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

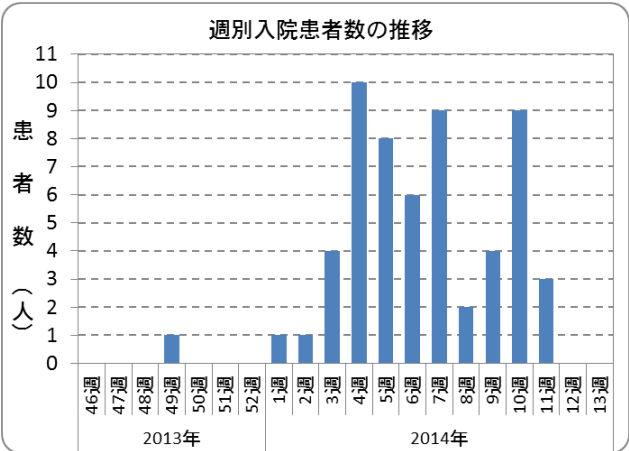
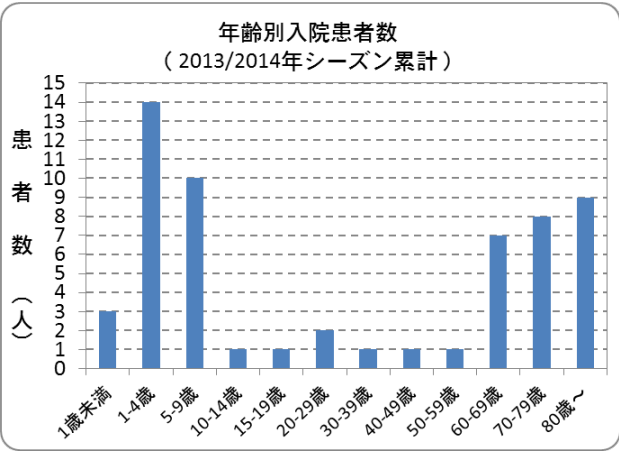
第 11 週：57 施設 累計：580 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	10	78	45	433	2	55	0	8	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3 名（1～4 歳 1 名、5～9 歳 1 名、30 代 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 11 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1				1						3
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず		1	1				1						3

* 重複あり

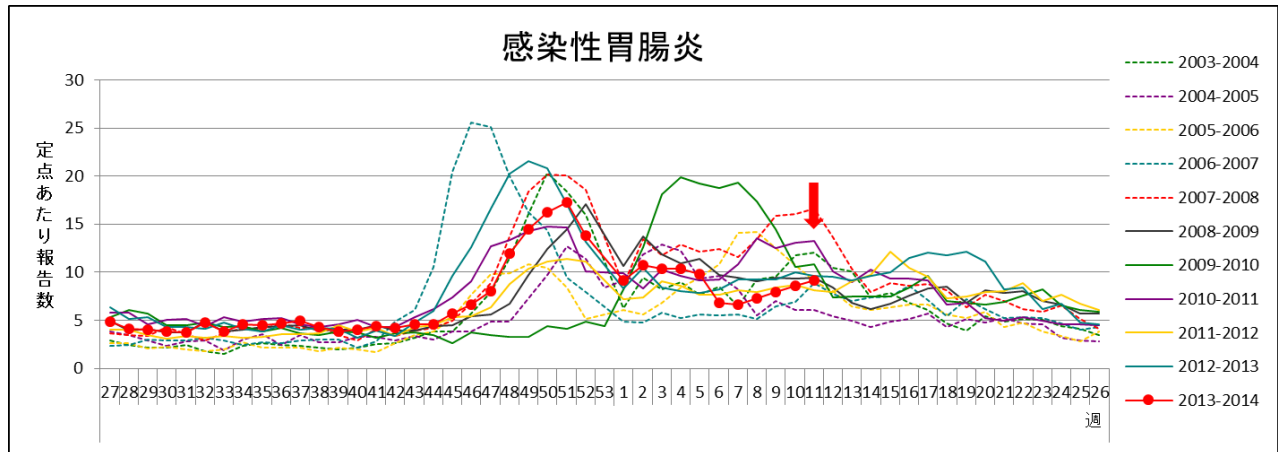
【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	14	10	1	1	2	1	1	1	7	8	9	58
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査 (予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	10	7	1	1	2	1	1		7	5	8	45

* 重複あり

感染性胃腸炎情報 2014 年 第 11 週 (3 月 10 日 ~ 3 月 16 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 494 名（定点あたり 8.59 → 9.15 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



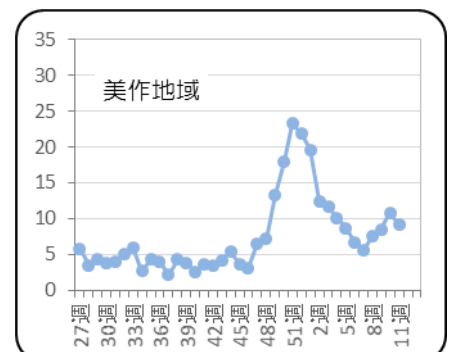
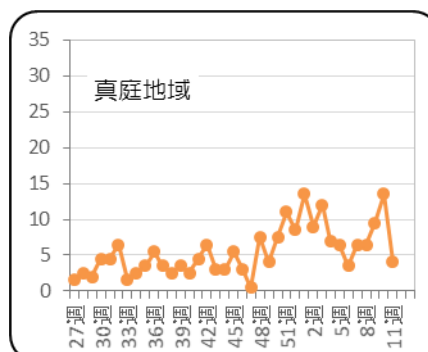
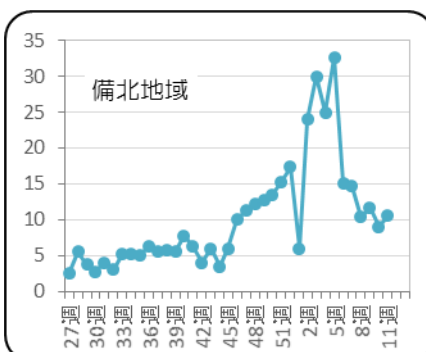
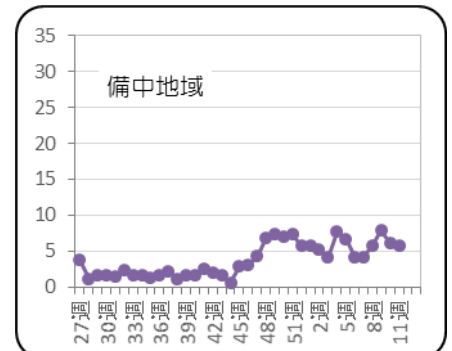
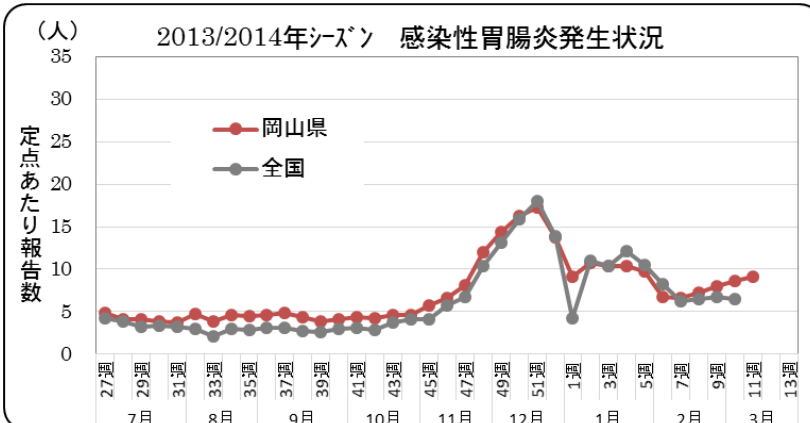
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

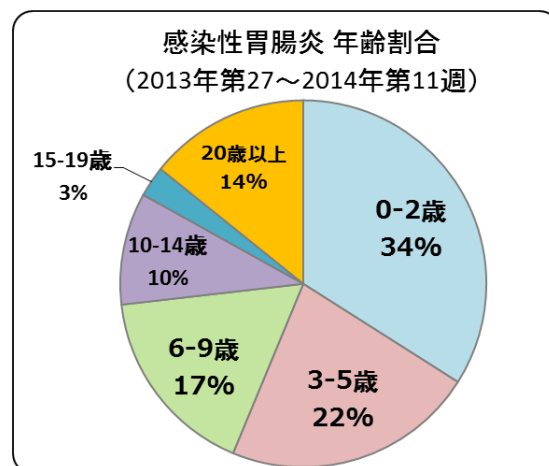
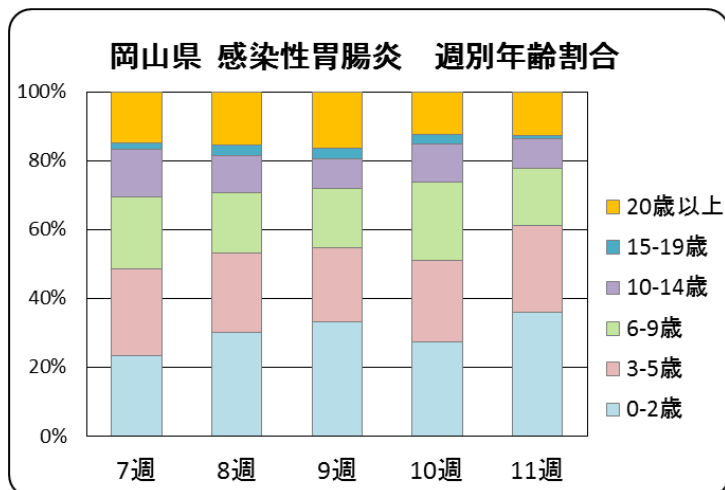
感染性胃腸炎は、県全体で 494 名（定点あたり 8.59 → 9.15 人）の発生がありました。第 7 週以降横ばいで推移していますが、第 8 週以降はわずかに増加が続いています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省）](#)

[○ロタウイルスに関する Q&A（厚生労働省）](#)

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、倉敷市（10.82 人）、岡山市（10.64 人）、備北地域（10.50 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市、倉敷市で 2 週連続増加しました。週別年齢割合を見ると、第 11 週は 0-2 歳の年齢層が大きく増加しました。第 6 週以降、乳幼児の年齢層の割合が増加傾向となっています。

例年 3～5 月には、0-2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2014年 11週 (2014/03/10～2014/03/16)

2014年3月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1489	17.73	382	17.36	404	25.25	213	14.20	283	23.58	52	8.67	40	13.33	115	11.50
RSウイルス感染症	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
咽頭結膜熱	20	0.37	11	0.79	2	0.18	2	0.20	—	—	1	0.25	2	1.00	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	13	0.93	10	0.91	6	0.60	1	0.14	—	—	1	0.50	6	1.00
感染性胃腸炎	494	9.15	149	10.64	119	10.82	81	8.10	40	5.71	42	10.50	8	4.00	55	9.17
水痘	35	0.65	11	0.79	9	0.82	2	0.20	—	—	—	—	5	2.50	8	1.33
手足口病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	7	0.50	6	0.55	4	0.40	1	0.14	1	0.25	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	0.06	3	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	11	0.92	3	0.60	2	0.50	4	4.00	2	2.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	0.60	1	1.00	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1489	17.73	382	17.36	404	25.25	213	14.20	283	23.58	52	8.67	40	13.33	115	11.50
咽頭結膜熱	20	0.37	11	0.79	2	0.18	2	0.20	—	—	1	0.25	2	1.00	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	13	0.93	10	0.91	6	0.60	1	0.14	—	—	1	0.50	6	1.00
感染性胃腸炎	494	9.15	149	10.64	119	10.82	81	8.10	40	5.71	42	10.50	8	4.00	55	9.17
水痘	35	0.65	11	0.79	9	0.82	2	0.20	—	—	—	—	5	2.50	8	1.33
手足口病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	0.06	3	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	3	0.06	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	11	0.92	3	0.60	2	0.50	4	4.00	2	2.00	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第11週 2014/03/10～2014/03/16)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1489	4	13	42	44	72	76	130	120	117	101	87	289	46	55	110	83	56	27	12	5

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	20	-	1	3	1	3	1	2	2	1	-	2	3	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	-	1	2	1	3	4	5	7	4	3	2	2	1	2
感染性胃腸炎	494	3	26	78	70	41	40	44	32	13	12	25	43	4	63
水痘	35	-	1	3	6	5	8	6	4	-	1	1	-	-	-
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
突発性発疹	21	-	13	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	3	-	1	1

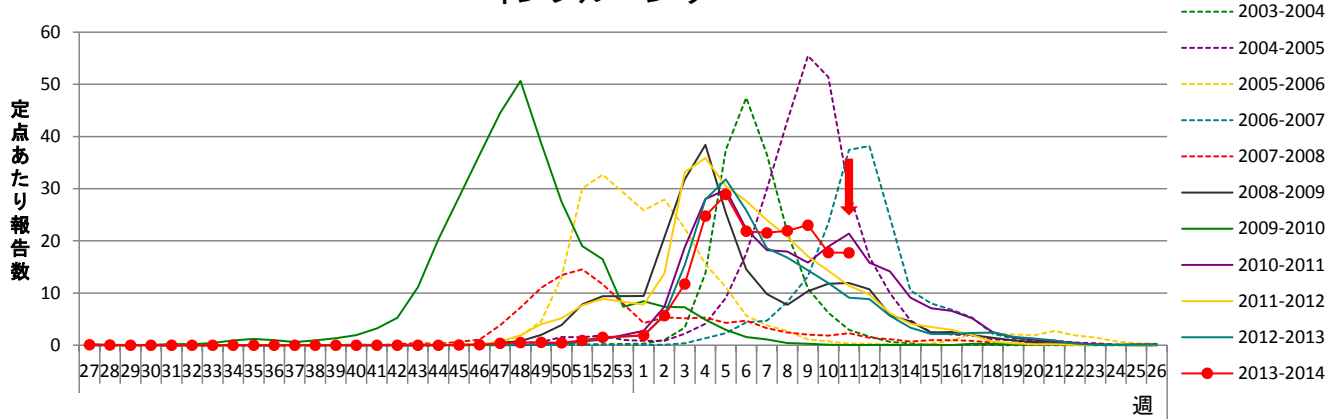
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

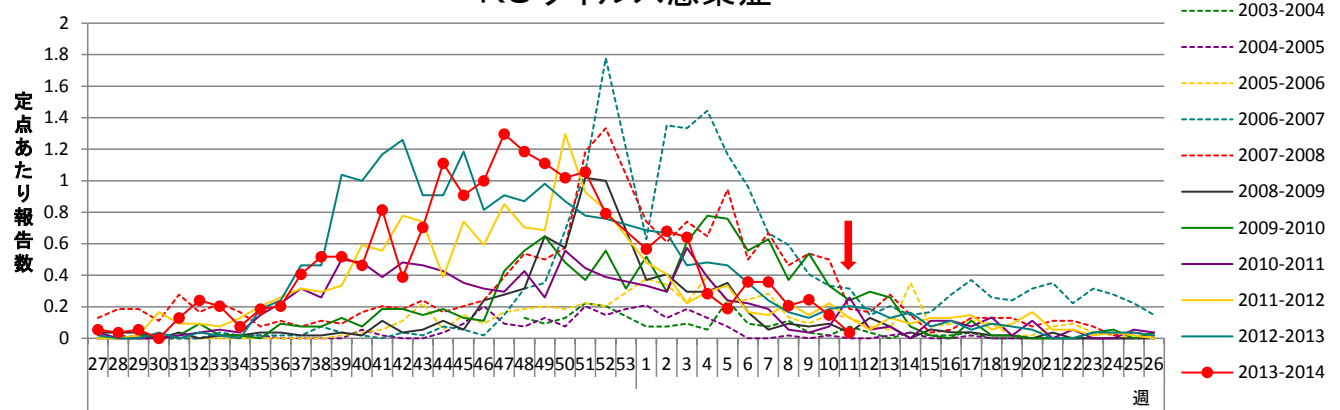
2014 年 11 週

分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ベスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	2	60	358	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	2	87
	腸チフス	－	－	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	2	5
	エキノコックス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	－	デング熱	－	－	－
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	1	日本紅斑熱	－	－	2	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	1	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	7	24	レプトスピラ症	－	－	2
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	五類	アメーバ赤痢	－	1	20	ウイルス性肝炎*3	－	1	13	急性脳炎*4	－	4
クリプトスポリジウム症		－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	1	3
後天性免疫不全症候群		1	2	18	ジアルジア症	－	－	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	－	1
侵襲性髄膜炎菌感染症		－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	5	20	先天性風しん症候群	－	－	－
梅毒		－	2	8	破傷風	－	－	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		－	－	1	風しん	－	2	76	麻しん	－	3	3

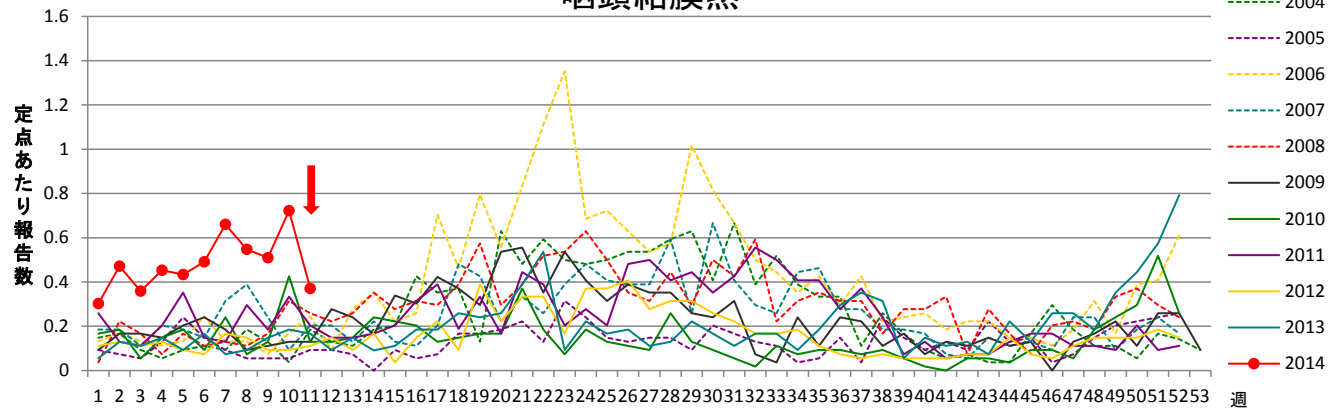
インフルエンザ



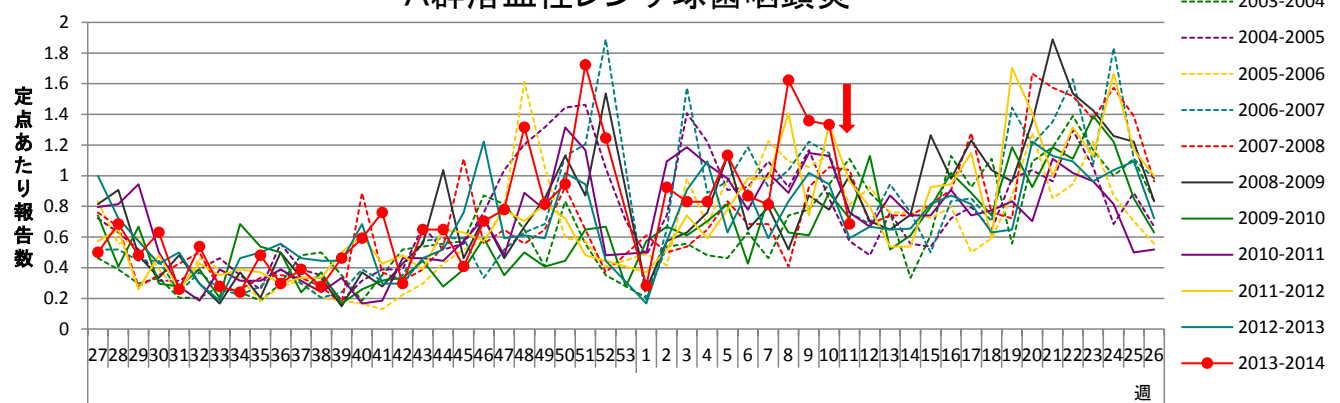
RSウイルス感染症



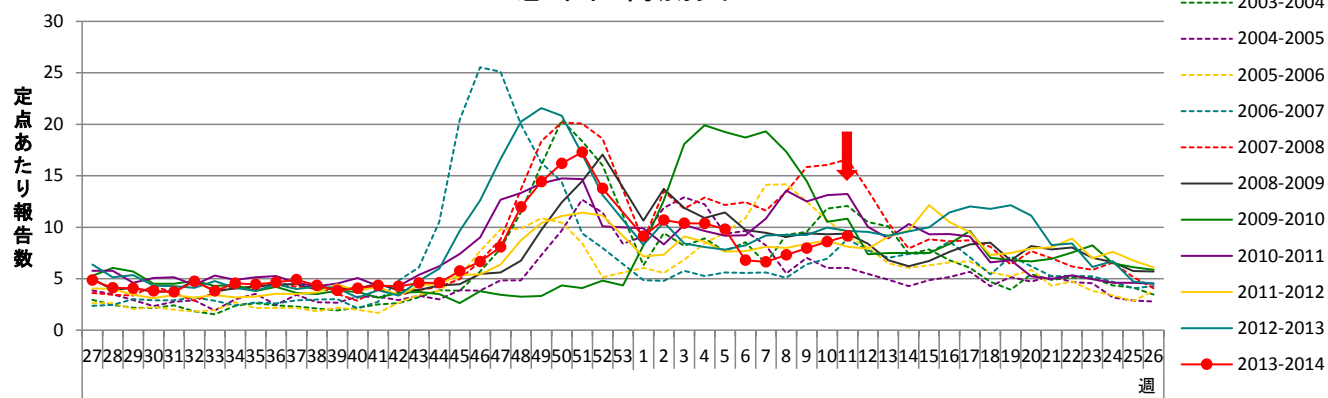
咽頭結膜熱



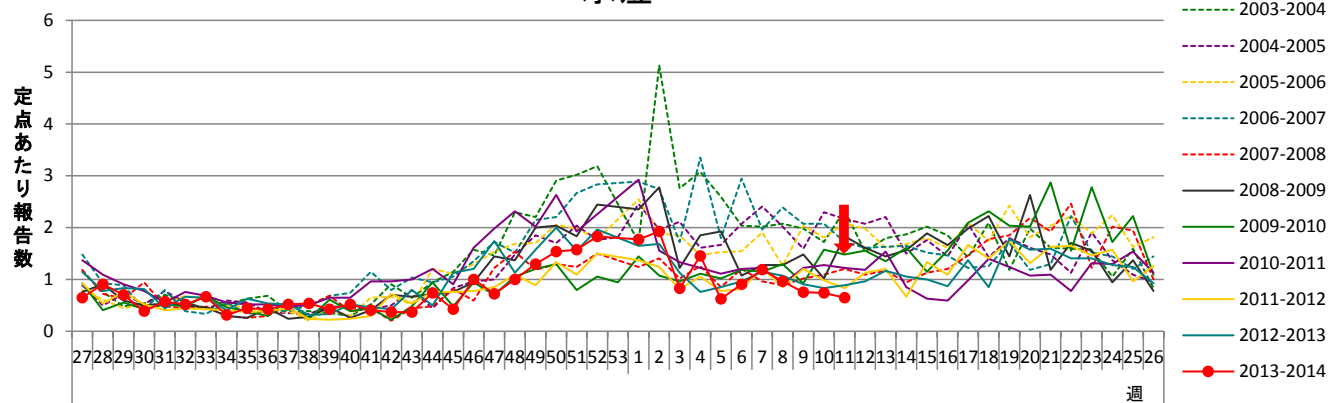
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



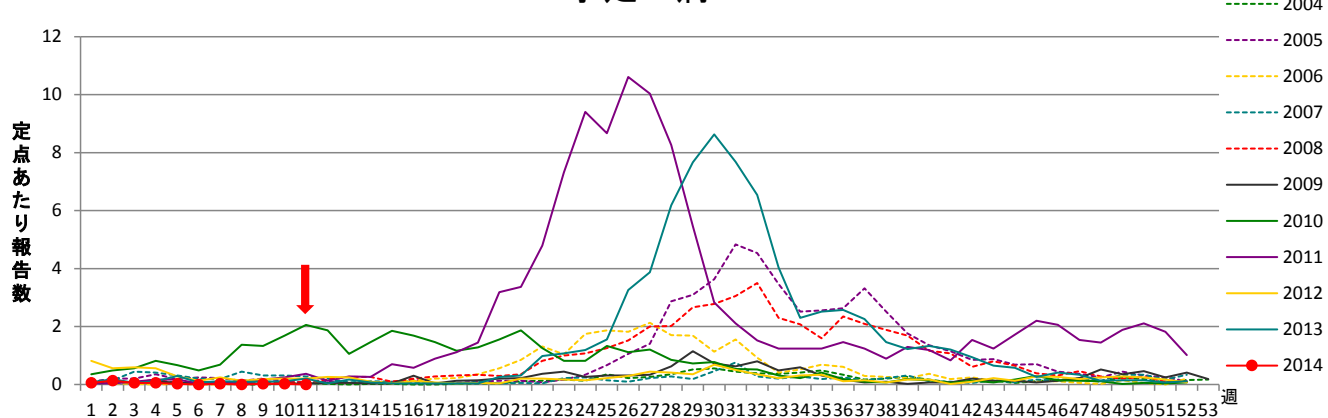
感染性胃腸炎



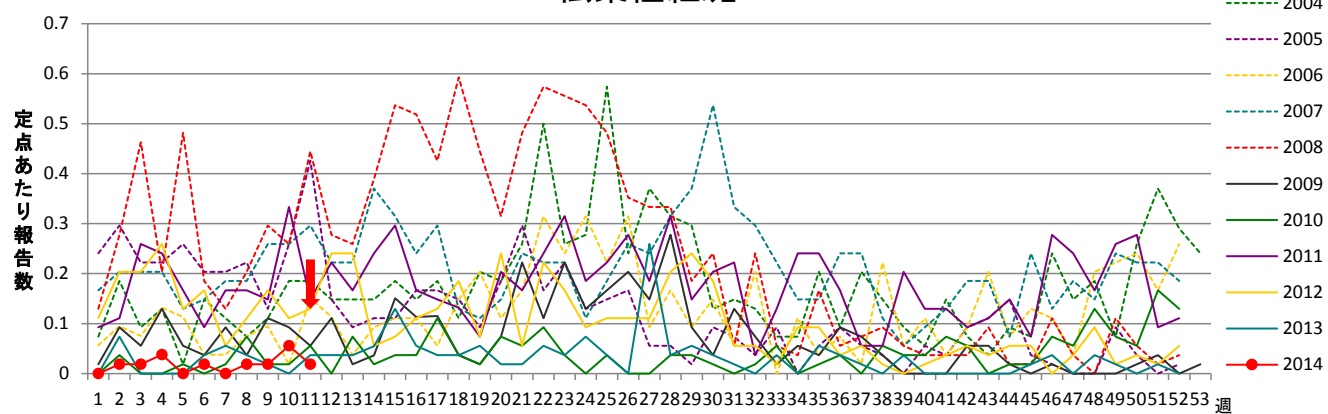
水痘



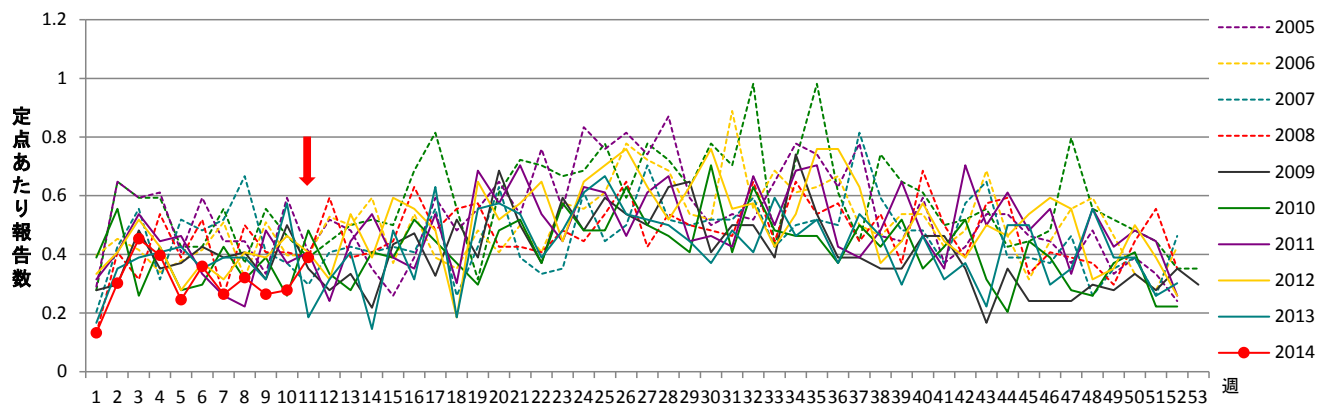
手足口病



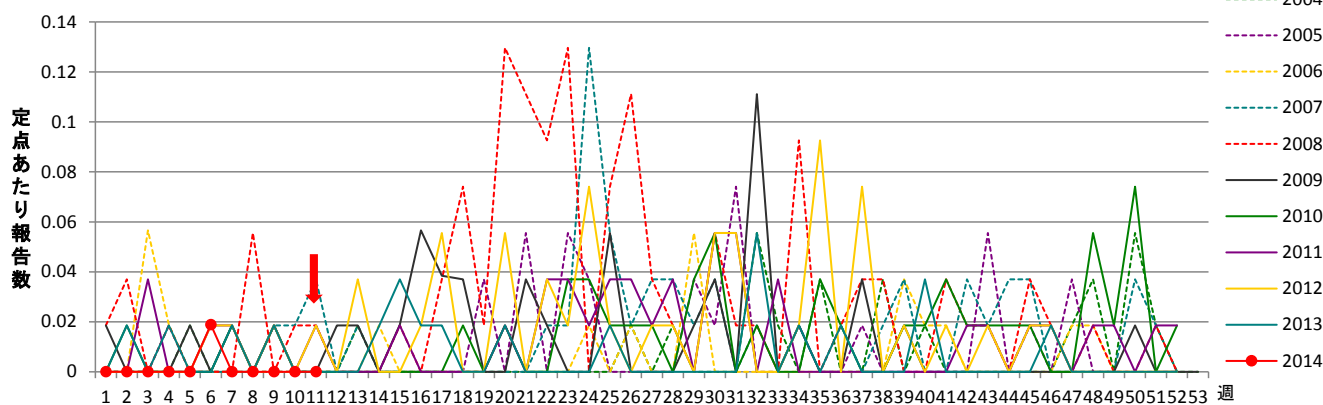
伝染性紅斑



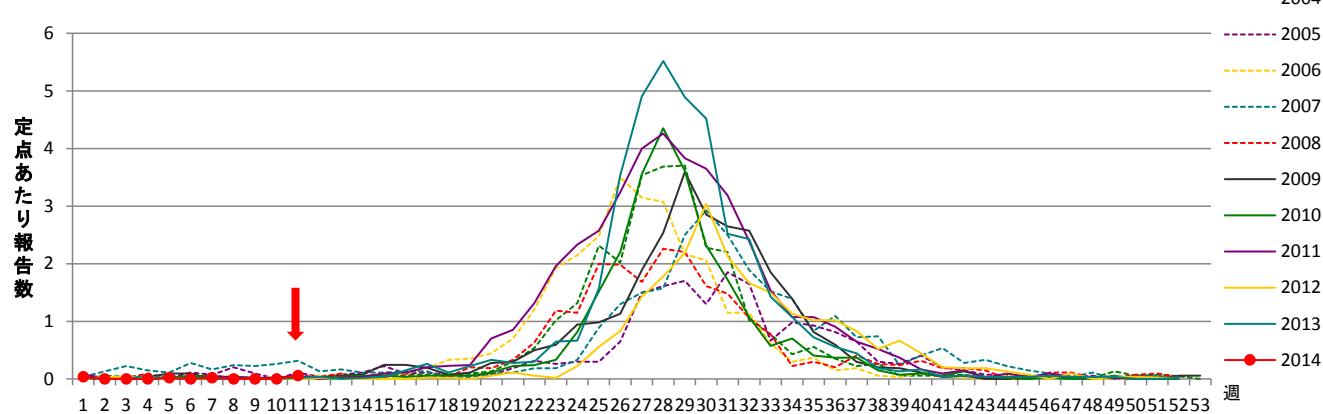
突発性発疹



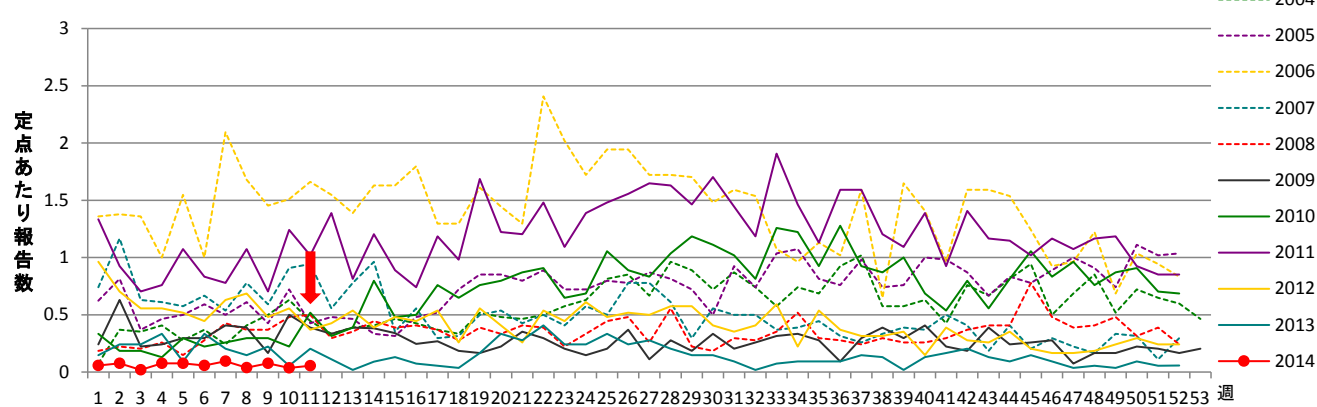
百日咳



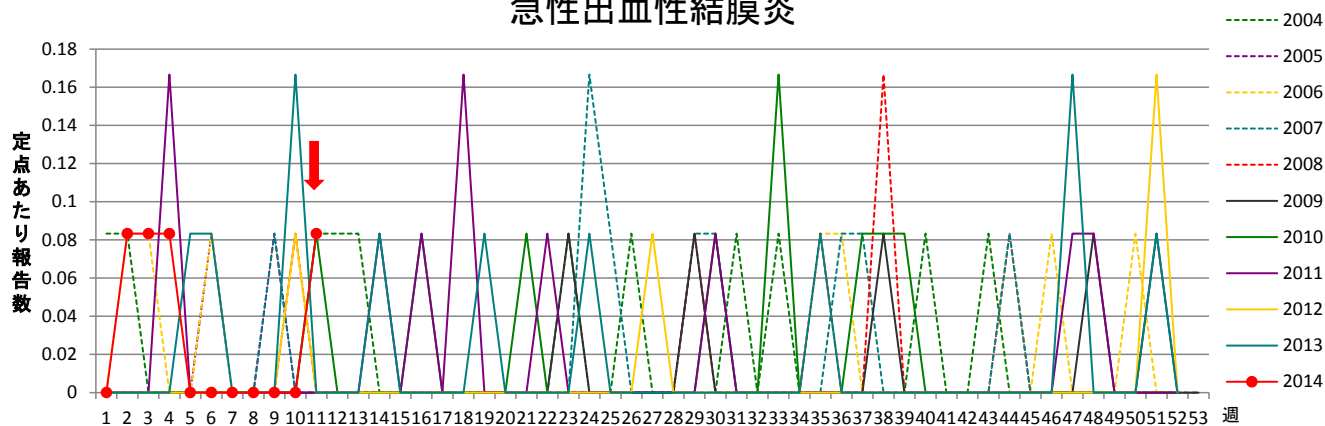
ヘルパンギーナ



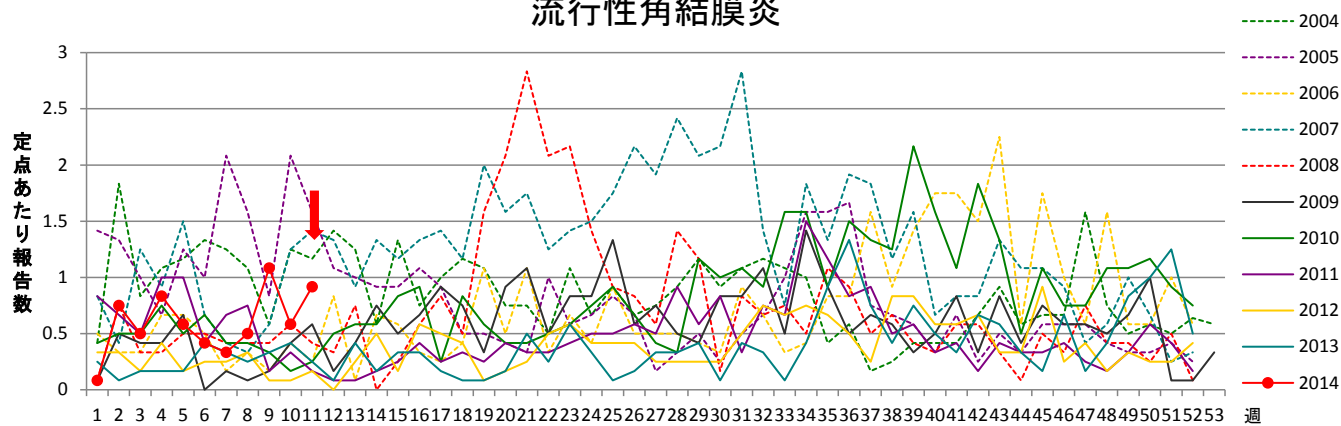
流行性耳下腺炎



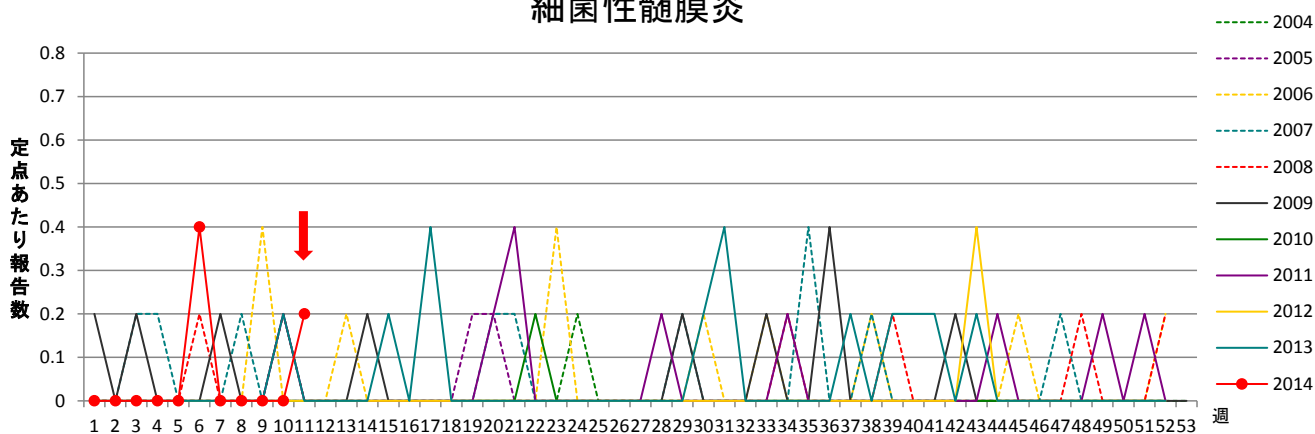
急性出血性結膜炎



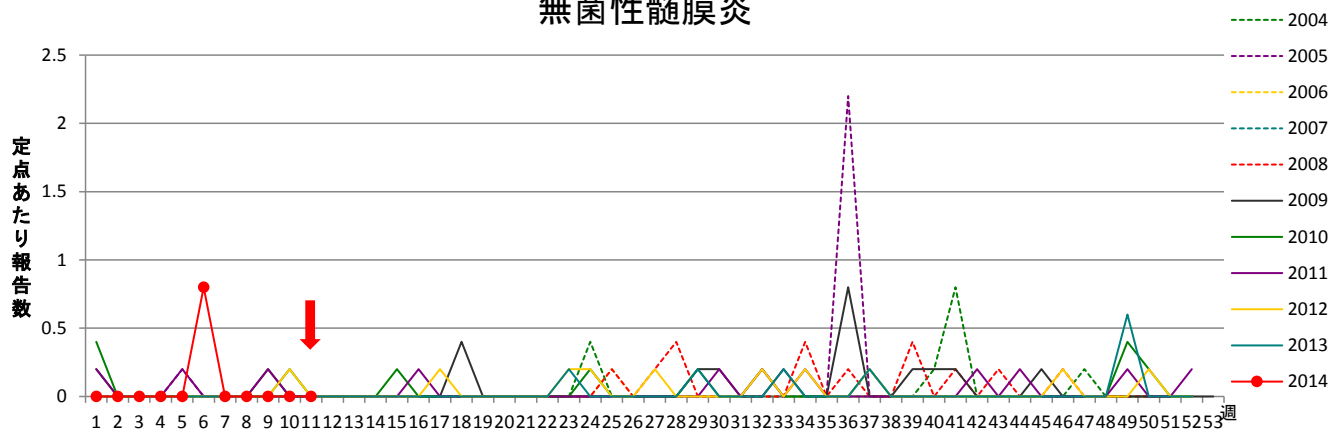
流行性角結膜炎



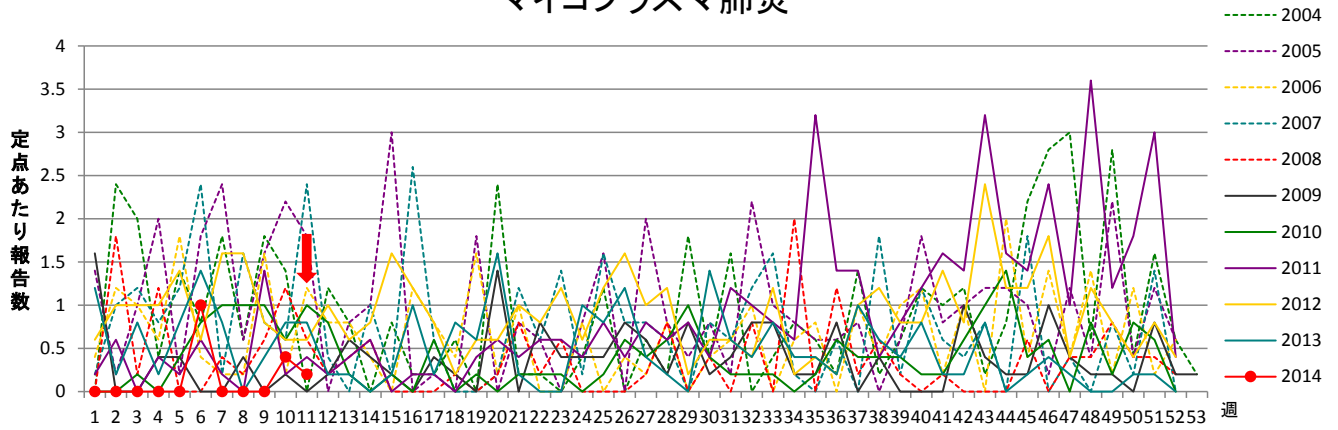
細菌性髄膜炎



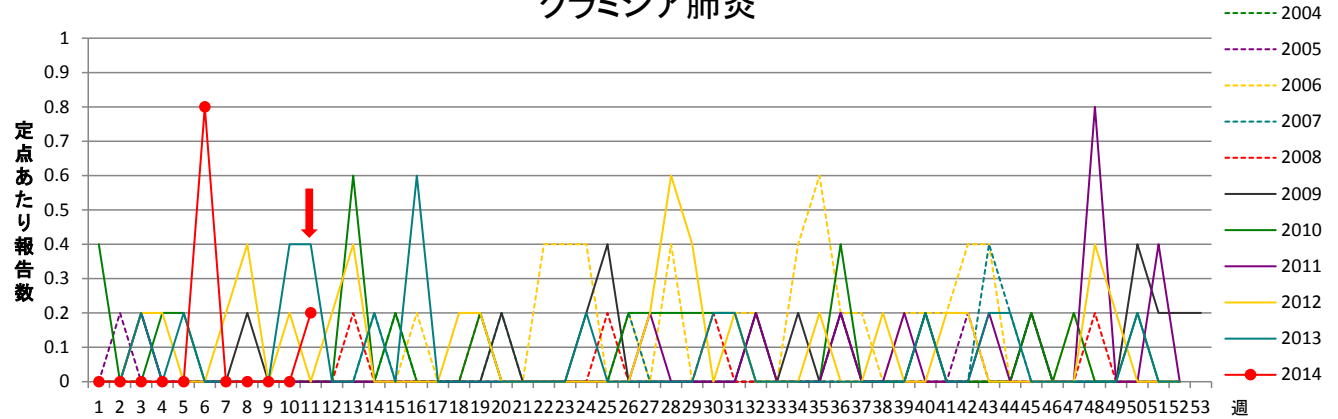
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

● 2013-2014

